

2017 秋 叙勲・褒章

不断の努力と永年の功績が認められ

旭日双光章（地方自治功労）



阿部 健一郎さん
(津山町横山7区・83歳)

1979年津山町議会議員に当選して以来、6期24年にわたり町勢発展に貢献しました。91年から4年間、津山町議会副議長として、議会の円滑な運営とその活動の活性化にも注力。

豊富な経験と卓越した指導力を發揮し、地方自治の発展と住民福祉の向上に尽力しました。

旭日单光章（生活衛生功労）



千葉 吉郎さん
(中田町川面・85歳)

1955年食肉販売業「ちば食品」を創業。2001年県食肉生活衛生同業組合副理事長に就任し、組合運営の指導的役割を果たしました。

1966年に教員となり、志津川町立(現南三陸町)入谷小に勤務。96年気仙沼市立白山小学校長、99年県志津川海洋青年の家所長、2001年豊里

小学校長を務め、02年3月に退職しました。同年4月登米町教育長に就任、04年3月の退職までの38年間、教育行政発展に尽力しました。

旭日单光章（林業振興功労）



伊藤 幸一さん
(登米町八丁田・81歳)

1976年登米町森林組合理事、91年同代表理事組合長に就任。この間、林業の機械化を推進し労働環境を改善。若手林業技術者の雇用など、後進の育成に注力しました。

瑞宝双光章（教育功労）



須藤 勝利さん
(登米町入谷・73歳)

1966年に教員となり、志津川町立(現南三陸町)入谷小に勤務。96年気仙沼市立白山小学校長、99年県志津川海洋青年の家所長、2001年豊里

小学校長を務め、02年3月に退職しました。同年4月登米町教育長に就任、04年3月の退職までの38年間、教育行政発展に尽力しました。

瑞宝单光章（消防功劳）



菊澤 美津也さん
(中田町館・70歳)

1974年中田町消防団に入団。2004年中田町消防団副分団長、05年登米市中田町消防団副分団長、07年登米市消防団分団長、08年同副団長

に就任し、地域防災の確立に貢献しました。

11年に退団するまでの38年間、住民生命、地域の財産の保護、地域防災力の向上に尽力しました。

黄綬褒章



渡邊 光悦さん
(迫町江合・65歳)

1975年渡辺土建に入社。93年同取締役、99年同代表取締役に就任。以来、建設業經營に精励し、公共施設建設など、地域の発展に貢献しました。

2013年県建設業協会副会長、県建設業協会登米支部長、14年県建設業協同組合副理事長に就任し、現在も建設業界の発展に尽力しています。

瑞宝单光章（消防功劳）



金 和男さん
(石越町第十三・67歳)

1973年登米地区消防事務組合に入庁。2005年登米市消防署西出張所長、07年同南出張所長、08年同警防課長、09年同消防長に就任し、

市消防の警防、予防体制確立に貢献しました。

11年に退職するまでの38年間、住民生命、地域の向上に尽力しました。

藍綬褒章



佐藤 達雄さん
(豊里町仲町・81歳)

1970年から農林業センサスセンター調査員として從事。以来、農林業センサス10回、国勢調査8回、住宅・土地統計調査6回、商業統計調査8回など、計60回の調査に従事していました。

政策の基礎となる調査活動を通じて、国民経済の発展および國民生活の向上に尽力しています。

いつまでもお元気で おめでとうございます 祝100歳



柴崎 とめさん
(南方町・南大畑)
大正6年11月23日生まれ

中田町宝江新井田出身のとめさん。新聞を読むのが日課です。「日付が分かるし、テレビを見るより、情報が頭に残るから、情報が頭に残るからね」とつっこり。80代後半までゲートボールの選手として活躍しました。

から声を掛けてもらえることが一番の宝物」と話します。

食べるとめさん。「毎日、家族のおいしい料理をこちそうになつています」と手を合わせ、笑顔で感謝していました。



岡元 かつさん
(迫町・立戸)
大正6年11月13日生まれ

迫町北方出身で新田に嫁ぎ、農業をしながら、5人の子どもを育て上げました。昔から好き嫌いなく何でも食べたかつさんは、特に餅が大好き。結婚当時は地域の人たちで旅費を積み立て、鳴子温泉に湯治に行くのが樂しかった。

みでした。入所している迫風園で、お祝いをしてもらつたかつさん。長男の嫁くに子さんは「園でお世話をになり、穏やかに暮らしている。これからも元気で長生きしてほしい」と話していました。

1973年登米地区消防事務組合に入庁。2005年登米市消防署西出張所長、07年同南出張所長、08年同警防課長、09年同消防長に就任し、

市消防の警防、予防体制確立に貢献しました。

11年に退職するまでの38年間、住民生命、地域の向上に尽力しました。

政策の基礎となる調査活動を通じて、国民経済の発展および國民生活の向上に尽力しています。

から声を掛けてもらえることが一番の宝物」と話します。

食べるとめさん。「毎日、家族のおいしい料理をこちそうになつています」と手を合わせ、笑顔で感謝していました。